

第五十七話 令和元年 六月八日

【承久】

武士モノを著わす拙者にとって、もう一つ気になる元号がある。

それは【承久】。

「承久の乱」が起きた元号、承久はたった四年間。キリスト紀元1219年から1221年。

日本の歴史で、はじめての朝廷と武家の武力闘争であったのが承久三年。世に云う「承久の乱」。「変」とも云う。

武家政権が確立。以来700年近く武家が政〔まつりごと〕を仕切る。“世界遺産”の「サムライ」が出現した。

この「変」と「乱」の違い。

成功したクーデターが「変」。成功して世の中が変わった、という勝者の云い分。

失敗したクーデターが「乱」。反乱が起きたが鎮圧したぞ。これも勝者の云い分。

ゆえに「承久の乱」。

余談。本能寺jは「変」か「乱」か。

明智光秀、三日天下であったから勝者の視点で「乱」であるが、信長天下が終焉したことから「変」。光秀への判官びいきもある。

来年のNHK大河。光秀が主演。NHK大河第一作は「花の生涯」。尊王志士のにっくき男、明治維新教科書の二重丸悪党。

この悪党を「こいつ本当の本当の姿はこうだった」。「アンタ、どう思う」とNHK大河は世に問うたNHK大河の本道。奇をてらったオリンピックから本道に戻ったようだ。

余談が過ぎた。本題。

永遠の天才上皇、後鳥羽上皇は、なぜ負けたか。

諸説ある。←「チコちゃんに叱られる」で最近、この「諸説あります」のテロップがでる。

研究者が増えれば増えるほど諸説は増える。近年の武士モノ、諸説オンパレード。

拙者の説。

後鳥羽上皇、坂東武者の素性を知らな過ぎた。東国の荒くれ武者ぐらいに考えていた。素性の良い清和源氏の嫡男を担いだが、源の血が絶えたいま、不和が沸騰し、赤子の手をひねるようなものと過信していた。

「坂東」とは関東の古名。「律令制」には駿河と相模との境。「常陸国風土記」にも「相模国足柄の坂より東」とある。

坂東は鹿島神宮 香取神宮のある地。その昔々、神宮と呼ばれたのは、この二つの他に伊勢神宮のみ。それにこの二つ、**伊勢神宮よりはるかに古く創建されてゐる**

後鳥羽上皇、忘れておしまいになっていた。神代からの武の国。

鹿児島島の天降り川〔あもりがわ〕から天孫降臨したのは坂東のツワモノたちだった。

後鳥羽上皇、「古事記」にも「日本書紀」にもか書かれていなかったのだから知らなかった。

神の世の、眠っていた子を起こしたのだ。それが後鳥羽上皇はなぜ負けたわけ。

談余。

朝敵第一号は坂東武者、平 将門。将門の生地からさほど遠くない鹿島神宮と富士山を結ぶ一直線上

に江戸城天守閣がある。

徳川家康は知っていた。後鳥羽上皇はなぜ負けたわけを。